



まだ誰も知らない安心を、ともに。

## 画像解析フォレンジックが累計 1 万件に到達

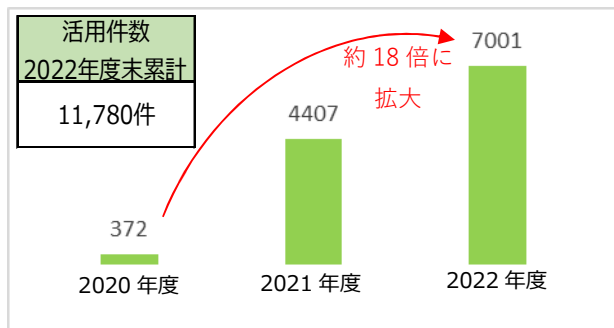
2023年5月1日

あいおいニッセイ同和損害調査株式会社（代表取締役社長：遠藤 隆興）は、あいおいニッセイ同和損保グループの一員として「CSV×DX<sup>※1</sup>」を通じたお客さま・地域・社会の課題解決への貢献」に取り組んでおり、昨今のテレマティクス自動車保険の普及やドライブレコーダーの装着率増加、EDR（イベント・データ・レコーダー）の搭載義務化などの自動車を取り巻く環境変化に対応し、これらの車載データ等を活用することで客観的かつ迅速な自動車事故の原因調査へつなげています。

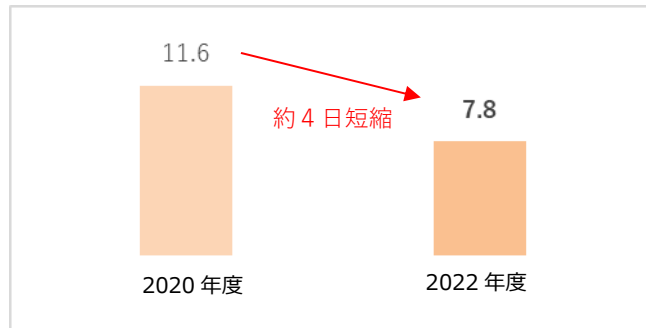
この取組みの一環として、2020年度から「画像解析フォレンジック<sup>※2</sup>」を導入し、全国15拠点で調査対応可能な体制を構築しています。特に専門人材を育成し社内体制の拡充を行った2021年度以降は急速に活用件数が増加しており、2022年度において活用件数は累計1万件に到達しました。〈表1〉

また2020年度4名であった専任解析者を2022年度には30名まで拡充しており、導入当初は平均で11.6日要していた調査日数は直近で7.8日と約4日短縮しており、さらに迅速な対応を実現しています。〈表2〉

〈表1〉 活用件数の推移



〈表2〉 調査所要日数の推移

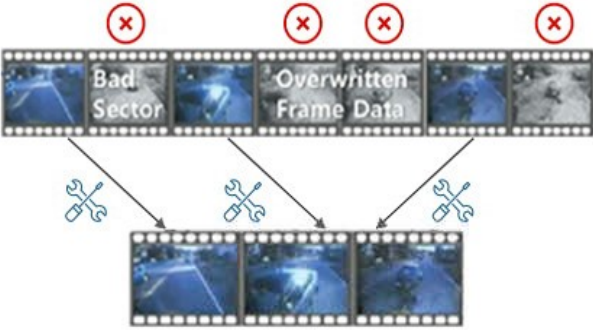




「画像解析フォレンジック」導入以前は、専門の調査員が事故現場および事故車両の損傷状況等を確認し事故の原因調査を行っていましたが、事故当事者の証言の食い違いなどから事故の解決までに時間を要するケースがありました。現在では、従来の調査に加え、テレマティクス情報・ドライブレコーダー動画等のデータを活用し「画像解析フォレンジック」によって動画の復元や画像の鮮明化を行うことで客観的かつ迅速な事故の解決につなげています。

例えば、衝撃等によってドライブレコーダーの動画データが破損し再生できなかった事故では「画像解析フォレンジック」によって動画を復元したことで事故状況が明確となり、迅速な解決となりました。また、ドライブレコーダーに記録された画像が不鮮明なためスマートフォン使用が特定できなかった事故では「画像解析フォレンジック」により車室内を鮮明化したことで使用が特定でき、適切な責任割合の解決となりました。

このように、デジタル技術の活用によって、以前は対応できなかった事故においても客観的かつ迅速な対応が可能となっており、活用件数の増加につながっています。

<活用事例>

動画の復元事例	画像の鮮明化事例
<p>データ破損によって再生不可能な状態であったドライブレコーダー動画を復元することで、事故時の信号色の判明につながった。</p>	<p>ドライブレコーダー動画を鮮明化することで、運転者のスマートフォン使用が特定でき、適切な過失修正が行えた。</p>
<p>破損していないフレームを集めることによって、動画の再生が可能なレベルに復元しています。</p>  <p>出典：リーガルテック株式会社</p>	<p>元画像に明るさやコントラスト補正、カーブ等で調整し、特定できるレベルに鮮明化しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="850 719 1241 1010"> <p>解析前</p>  </div> <div data-bbox="1265 719 1540 1010"> <p>解析後</p>  </div> </div> <p>出典：あいおいニッセイ同和損害調査株式会社</p>

当社では、これまでの調査実績から得た知見をもとに、解析作業の一部を自動化する技術の開発に取り組んでおり、さらなる迅速対応の実現を目指しています。加えて、事故の原因調査で培った解析技術を防犯カメラ映像の解析に応用し、さまざまな社会・地域課題の解決への取り組みも進めています。

今後も「デジタル技術」を積極活用することによる、より一層快適な事故対応サービスを提供するとともに「安心・安全な社会の実現」へも貢献してまいります。

以上

※1

CSV : Creating Shared Value (社会との共通価値の創造)

DX : Digital Transformation (データやデジタルを活用し、価値提供を変革させること)

※2

画像解析フォレンジック：ドライブレコーダーなどの動画を解析し事故発生時の走行速度や運転挙動などを解析